

# 向井俊彦教授 略歴 主要著書・論文目録

## 略 歴

一九四三年十二月二七日 大阪市に生まれる

## 学 歴

- 一九六七年三月 京都大学文学部卒業
- 一九六七年四月 京都大学大学院文学研究科修士課程入学
- 一九七〇年三月 同 修了
- 一九七〇年四月 京都大学大学院文学研究科博士課程進学
- 一九七六年三月 同 単位取得退学
- 一九七六年四月 立命館大学経済学部助教授
- 一九九〇年四月 同 教授
- 一九九三年九月 立命館大学文学部教授
- 一九九四年四月 立命館大学理工学部教授
- 一九九八年四月 立命館大学文学部教授

この間、学内外において、教育科学研究所長、総合基礎教育センター長、京滋地区私立大学教職員組合連合書記長、日本科学者会議京都支部事務局長、関西唯物論研究会事務局長、同副委員長等を歴任

二〇〇六年五月十四日

逝去

主要著書・論文目録

I 著書(単著)

『唯物論とヘーゲル研究』文理閣、一九七九年

II 著書(共著)

『ヘーゲル論理学入門』有斐閣、一九七八年

『ヘーゲル大論理学概念論の研究』大月書店、一九九一年

III 論文(『唯物論とヘーゲル研究』に収録の一九七三年から一九七九年にかけて発表された諸論文を除く)

「実践的唯物論」が唯物論のマルクス主義的形態か―芝田進午氏「実践的唯物論の体系」の批判的検討」『唯物論研究』第2号、一九八〇年

「唯物論と実践概念」

「鈴木茂先生の学問について」

「アルチュセールのイデオロギー論についての批判的検討」

「ハーバーマスの『コミュニケーシヨンの行為の理論』をめぐって」

「現代資本主義分析と史的唯物論の基礎カテゴリー」

「今、マルクス主義哲学の課題を考える」

「教養・人間形成の意味とは何か」

「認識主体とア・プリオリなもの…カントとピアジェほか」

「今、唯物史観の課題を考える」

「『大学の理念』をめぐって」

「生涯学習と高等教育」

「日本の思想研究は普遍性をもちうるか」

「これからの唯物論のあり方をめぐって―鈴木茂先生の没後十年を記念して」『唯物論と現代』

『現代と唯物論』

『唯物論と現代』

『唯物論と現代』

『唯物論と現代』

『唯物論と現代』

『思想と現代』

『立命館教育科学研究』

『立命館教育科学研究』

『唯物論と現代』

『立命館教育科学研究』

『立命館教育科学研究』

『唯物論と現代』

『唯物論と現代』

「今、私学の一般教育改革を考える」

『大学教育学会誌』

第23巻第1号、二〇〇一年

#### IV その他

「解題」

『鈴木茂論文集1 理性と人間』

文理閣、一九八九年

「立命館大学外国語教育FDプロジェクト・編『国際化時代の外国語の学び方』

第10号、一九九七年

「コメント」 「学生の個性と大学教育」の観点から」

『京都大学高等教育研究』

第3号、一九九七年

「歴史認識の現在」(川北稔氏へのインタビュー)

『唯物論研究年誌』

第6号、二〇〇一年

「若い人に着目しよう」

『日本の科学者』

第40巻第10号、二〇〇五年